

科目名	航空実習		英文表記	Aviation training			
科目コード	7003						
教員名: 田口 学						作成	
技術職員名:							
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
機械システム工学科・情報通信システム工学科・メディア情報工学科	5年	選	履修	3単位	実習	通年	
科目目標	① 座学や基礎実習などで学んだ知識が社会活動にどのように関わっているかを研修/実習を通して理解する ② 研修/実習を通して、自分自身の現状を理解し、航空整備士への適性を考えることができる ③ 研修/実習を通して、整備業務を円滑に進めるために必要な基礎知識を認識する ④ 航空会社における品質安全の大切さを認識することができる						
総合評価	各学生の作成する航空実習報告書・日報 (60%) 航空実習発表会と資料 (30%) 事前学習などの提出物 (10%) で評価し、合計点が60%以上で合と評価する。						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)		ルーブリック				
	達成度目標の評価方法		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	最低限必要な到達レベル	セルフチェック	
	①	航空実習先企業からの評価書、各学生の作成する航空実習報告書、企業研究などの提出物、航空実習発表会で評価	プログラム指定科目の知識が企業などでどのように活用・応用されているかを理解できる。	プログラム指定科目の知識が企業などでどのように活用されているかを理解できる。	研修/実習を通して、仕事の内容や進め方を理解することができる。		
	②	航空実習先企業からの評価書、各学生の作成する航空実習報告書、企業研究などの提出物、航空実習発表会で評価	研修/実習を通して、自分自身の現状を理解し、仕事への適性を考え、行動することができる	研修/実習を通して、自分自身の現状を理解し、仕事への適性を理解することができる	研修/実習を通して、自分自身の現状を理解することができる		
	③	航空実習先企業からの評価書、各学生の作成する航空実習報告書、企業研究などの提出物、航空実習発表会で評価	研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素・能力・知識を認識することができる	研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素・知識を認識することができる	研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素を認識することができる		
④	航空実習先企業からの評価書、各学生の作成する航空実習報告書、企業研究などの提出物、航空実習発表会で評価	各航空会社における品質安全の絶対的基準を認識することができる	航空会社における品質安全のポリシーや価値観を認識することができる	航空会社における品質安全の基本方針を認識することができる			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称		
			○	◎	JABEEプログラム教育目標		
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
評価項目	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
		0	0	90	10	100	
基礎的理解	①②			20		20	
応用力(実践・専門・融合)	③④			40		40	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	③④			10	10	20	
主体的・継続的学修意欲	②③④			20		20	
授業概要、方針、履修上の注意	・4年次に学んだ「整備基礎Ⅰ」の学習内容と5年次からの「航空機整備基礎実習」「整備基礎Ⅱ」を通して、現場の研修/実習の結合により学習効果および学習意欲の向上を図り、高い職業意識を育成し、自主性・独創性のある人材の育成を目指す。 ・航空会社の実習(体験)により、修得した専門知識や技術に裏打ちを与えたり、航空整備士の基礎知識を身につける。 ※ 受け入れ先企業の中での体験学習であるため、航空整備士としての服装やマナーに関しては十分な注意が必要である。 ※ 研修/実習の日数は1日間:1日6時間=8単位時間)とします。 ※ 事前学習および成果報告会(6コマ:12単位時間) ※ 後期対面時間(45分×14週:14単位時間)						
教科書・教材	教員が配布する資料 航空会社から配布される資料 その他航空実習に関わる資料・新聞情報など						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	航空実習(JTA)	24	4人を1グループとして、各週ごとに1グループ述べ3回(8時間/日)の現地実習を行う。 ※主に体験整備を基本とする	エアラインにおける業務日誌の作成、企業内での研究報告会およびその準備	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13	JTA実習成果の報告	4	インターンシップ報告書の作成と発表	報告書の作成・発表	
14	航空実習(ANA)に向けた 各自の取組	4	事前課題、事前学習など		
15					
	航空実習(ANA)	40	夏季休業中に5日間(8時間/日)の現地実習を行う。 ①MTM実習 ②シミュレーター見学 ③実機見学 ④その他	エアラインにおける業務日誌の作成、企業内での研究報告会およびその準備	
期末					
16	ANA実習成果の報告	4	インターンシップ報告書の作成と発表	報告書の作成・発表	
17	キャリア教育	14	1. 航空無線通信士 2. 進路選択 など	過去問の配布・試験対策	
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期末					
学習時間合計		90	実時間	67.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
備考欄					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)